



キャンパスマスタープランワーキングでの主要な意見

豊中キャンパス（石橋） 日時：平成16年10月29日（金）

- ・ 理念目標は良いと思うがこの段階で配置図（整備可能なスペース）を資料として提示することは疑問である。ランドデザインを考えるにあたり大学が何を望んでいるかの議論が大切である。
- ・ 現状の人の流れ（柴原駅から）を考えると歩行者が裏道の汚いイメージのある環境を歩いている。正門は車の出入りが中心で人の流れはほとんどないのが現状である。メインストリートの整備計画が必要である。
- ・ 学生が集まる屋外の場所が少ないと思う。建物中心の計画が先行しており広場計画が欠けているように思う。
- ・ マスタープランにはここには建物を建てないで空地を残すとう計画が大切ではないか。
- ・ 施設の整備計画と同様に施設の改築計画も大切ではないか。これ以上緑地、駐車場のスペースを無くしてよいのか。
- ・ 図書の保存書庫のスペースが足りない。将来学外施設の利用も検討しなければならない。
- ・ キャンパス全体で欠けているものは何か、必要なものは何かの議論が大切。

<個別に寄せられた意見>

※健康体育部

- ・ 会議場、ゲストハウス
- ・ 旧医短跡地の活用
- ・ 運動施設の拡充
- ・ キャンパス美化、禁煙化

※基礎工学研究科

- ・ 課外活動の奨励はキャンパスライフにとって必要な視点
- ・ 500名を超える「音楽練習場所の確保」が必要

※総合学術博物館

- ・ 学術資料展示→学術標本の保存と展示
- ・ 歴史的建造物の保全→保全と活用
- ・ コミュニティ・キャンパスの実現－「ユニバーシティ・ミュージアム」（総合学術博物館の活用）追加
- ・ 両キャンパスの「自然環境の開放」
- ・ 基本計画（マスタープラン）策定のフィロソフィーを記述しないと意図が不明確
ドリームプランの実現のための基本設計とした方が理解を得られやすいと思う。

※附属図書館

- ・ 図書館の将来計画が必要
- ・ 目標に「知的財産（図書を含む）の保存」の項目追加

吹田キャンパス 日時：平成16年10月29日（金） 10:00～11:30

- ・ アンケート調査の実施など阪大のキャンパス計画もやっとここまで考えるようになった。かなりの前進であり、レベルの向上が図られることが期待できる。
- ・ 学生、教職員の声をよく聞くことが大切で、学生の参加を求めたり、学生の目線でとらえてほしい、また学生の力を利用して作成することを考えてほしい。
- ・ 外部からのアイデア募集、コンペの実施等が考えられないか、またマスコミも巻き込んで作成できるような方法はないか。
- ・ 建物計画よりもキャンパスにおける道路、駐車場、駐輪場、広場、植栽、及び建物と建物を繋ぐ空間をどう構築するのが大切である。
- ・ 教育研究の施設ばかりではなく、学生、教職員の健康増進を図るような施設（ジム等）の整備も必要である。（外国の大学では整備されている）
- ・ 大学の顔となるようなものが必要であり、現在の阪大にはそのような施設がない。
- ・ 学生の溜まり場、学生が長く大学に滞在するような場の整備が必要である。また夜間に利用できる施設も大切。利用にあたっては学生のモラル教育も大切となる。
- ・ 理念目標の設定はよいことであり、これまでの計画に比べ次元が高くなった。
- ・ 大学の共通的なスペースの確保、ばらばらな施設整備にならないように、またデザインの統一を図ることが大切

<個別に寄せられた意見>

※人間科学研究科

- ・ 犬飼池周辺を公園あるいは憩いの広場に
- ・ 豊中キャンパス－千里中央－吹田キャンパス－JR茨木間の回遊バス
- ・ 民博との協調して
- ・ モノレール駅周辺の顔づくり、魅力づくり
- ・ 阪大病院前を地域住民が徒歩で進入可能な交流空間、ビオトープ回遊庭園のようにしホスピタルパークを移転する。
阪大病院前に民間の商用ビル建設が無計画になされ雑然とするに任せるよりは、阪大が駅ビル機能をもつ建物を作った方がよい。

※医学系研究科

- ・ 定年後の教授のキャンパス内での研究・教育活動の継続